

二 独立混成才七十二旅団行動記録

履 隊 部		名 隊 部	
<p>1. 昭和十九年十一月十四日軍令陸甲才一五五号陸亞機密才六五七号に依り復帰並に編成下令</p> <p>2. 昭和十九年十二月十七日緬甸国エナンジョンに於て編成完結</p> <p>3. 自昭和十九年十二月十七日至昭和二十年三月七日緬甸方面軍司令官の隷下に在り才二十八軍司令官の指揮下に入りてエナンジョン附近に位置し「完」作戦に参加</p> <p>4. 自昭和二十年三月八日至昭和二十年四月二十日</p>	<p>編成地</p> <p>緬甸国 エナンジョン</p>	<p>固有部隊名</p> <p>独立混成才七十二旅団</p>	<p>通稱号</p> <p>森才一二二一一部隊</p>
		<p>官</p> <p>少陸将</p> <p>山本 募</p>	<p>部 隊 長 名</p> <p>氏 名</p> <p>自昭和十九年十二月十七日至昭和二十年四月十日</p>
<p>兵出身地</p> <p>群馬県 新潟県 宮城県 福島県 東京都 埼玉県</p>	<p>位 置</p> <p>緬甸国</p>		

要 概 の 歴

- エナンジョン附近に位置し「完」二号作戦に参加
5. 昭和二十年四月十日旅団長陸軍少将山本募転任し後任陸軍大佐小原祐着任す
6. 自昭和二十年四月二十一日至昭和二十年七月十日「邁」作戦に参加此の間逐次エナンジョン附近より緬甸国タトン附近に移動す
7. 昭和二十年七月十日才二十八軍司令官の指揮下を脱し才四十九師団長の指揮下に入りタトン附近にあつて同地附近の警備に任ず
8. 昭和二十年八月五日才四十九師団長の指揮下を脱し才三十一師団長の指揮下に入り緬甸国バアン及カママン附近の警備を命ぜらるるも同年八月六日変更となり緬甸国タンピサヤに集結を命ぜられ昭和二十年八月十七日集結完了す
9. 昭和二十年九月十四日カロイト地区終戦処理を命ぜられ緬甸国ニバドゥに移駐
10. 昭和二十年十月二十三日モールメン地区終戦処理を命ぜられモールメン到着二十四日柳沢部隊と交代完了
11. 爾後モールメンに於て英軍の指示に従い終戦諸業務に従事昭和二十一年六月二十三日日本土帰還命令を受領六月二十五日モールメンに於て乗船翌二十六日出帆

既編成部
隊を統合
して編成
する

千 葉 県
栃 木 県
神 奈 川 県
富 山 県
長 野 県
山 梨 県
岐 阜 県
静 岡 県
愛 知 県
太 田 県
兵 庫 府
和 歌 山 県
奈 良 県
京 都 府
滋 賀 県
三 重 県
岡 山 県
鳥 取 県
山 口 県
香 川 県
徳 島 県
愛 媛 県
高 知 県
大 分 県
福 岡 県
佐 賀 県

昭和二十一年七月十三日大町港着上陸、昭和二十一年七月四日復員完結す

長崎県
沖繩県
朝鮮

編成裝備	備並に	指揮隷	属關係	及其の	變遷の
1. 編成裝備 旅団司令部 独立歩兵才一八七大隊 独立歩兵才一八八大隊 独立歩兵才五四二大隊 独立歩兵才五四三大隊 旅団砲兵隊	主要裝備 乘用車二、自動貨車十六 九七曲射歩兵砲一、重機関銃四、 五号無線機三、六号無線機二 九七曲射歩兵砲一、重機関銃四 九二式歩兵砲二、重機関銃八 九二式歩兵砲二、重機関銃八 四一山砲三、九一、十糧榴彈砲四、九四、 三七耗砲三 主要兵器なし	旅団工兵隊 旅団通信隊	2. 編成人員 将校 下士官 兵	一四八名 三四七名 一六五七名	

概要

合計 二一五二名

3 指揮隷属関係及其の変遷

緬甸方面軍に隷属し才二十八軍の指揮下に入り

昭和二十年七月十日才二十八軍司令官の指揮を離れ才四十九師団長の指揮下に入る

昭和二十年八月五日才四十九師団長の指揮下を脱し才三十一師団長の指揮下に入る

昭和二十年八月六日才三十一師団長の指揮下を離れ緬甸方面軍直轄となる

参加せる主要なる作戦(警備戦斗)の概要

自昭和十九年十二月 十七日 「完」作戦参加
至昭和二十年 三月 七日

一部を以てヤウ河谷沿いにセイビニューに南下せる
東阿才十一師(?)の約一箇旅団を阻止反撃し他の一部を以てチヨークに位置し北方に対し警戒せしめ主力はエナンジョン周辺に集結待機す
ヤウ河谷の反撃はレッツセ南側に於て膠着し我損害甚大なり
二月十九日敵はニヤング附近に於てイラワヂ河を渡河主力を以てメイクテラに突進一部(約一箇旅)を以て南下チヨークに迫る之に対する我が反撃意の如く進展せず

死傷損耗 補給 衛生

損害

戦死二〇 糧秣、被服良好なり

戦病死三〇 彈藥共に比較的良好的なり

行方不明一〇

果敢

輕微

輕微

自給

無線

遺棄死体

五

軍命令に依りニヤング、ミツチエ地区の敵に対し積極的攻撃を敢行すべく準備す

目昭和二十年 三月 八日 「完」二号作戦参加
至同 年 四月 二十日

ニヤング、ミツチエ地区の敵に対する攻勢は三月十日発起せるも進展せずレツセキミランピヤ（チヨーク北方）南側一ボバ山北方の線に於て辛うじて敵を阻止するの状況なりき
然るに四月十二日敵（約二箇旅と判断す）はボバ山キヤウバダン地区に來攻同日キヤクバダンを突破し四月十五日トニーウインデーに進出ラングーン道を遮断為にエナンジョン地区の確保困難となれり

目昭和二十年 四月 二十一日 適作戦参加
至同 年 七月 十日

エナンジョンを放棄し南緬甸タトンに転進す此の間隨所に小数の敵と遭遇せるも特記すべき戦斗を行わず
転進経路の概略

（確たるものあり）
其の他不明

損害

戦死二一八
戦病死九

行方不明 一一

戦果不明

損害

戦死三〇
戦病死一二五

糧秣被服彈

藥共に初期

に於ては比較的良好なり

りしも戦斗激化するに従い逐次低下

敵中突破転進を終始せるを以て補

極めて不良にして患者

之を收容治

エナンジョンに於てイラワジ西岸へ渡河南下カマ
 北方に於てイラワジ東岸に渡河トングー南側附近
 に於てシツタン河を渡河同河東側地区を南下チャ
 イト次でタトンに到る

終戦より帰還迄の行動の概要

1. 終戦時の位置、南部緬甸タンピサヤ附近
2. 昭和二十年九月十四日ニツパドウに移駐―自動貨車、牛車及徒歩に依る
3. 昭和二十年十月二十三日モールメン移駐―鉄道輸送に依る
4. 昭和二十一年六月二十五日帰還のためモールメンに於て乗船―V O 8 3 号ジーンフイ
 ツチー現在に到る

部隊の経歴中特異と認めらるる事項等

特記すべき事項なし

行方不明 三一九	給状況極め て不良なり	療するは殆 ど不可能な りき
-------------	----------------	----------------------